

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 四国財務局長

【提出日】 2020年3月13日

【四半期会計期間】 第20期 第1四半期(自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)

【会社名】 ベルグアース株式会社

【英訳名】 Berg Earth co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山口 一彦

【本店の所在の場所】 愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1

【電話番号】 0895-20-8231(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営管理部管掌 薬師寺 朝徳

【最寄りの連絡場所】 愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1

【電話番号】 0895-20-8231(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営管理部管掌 薬師寺 朝徳

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第1四半期連結 累計期間	第20期 第1四半期連結 累計期間	第19期
会計期間	自 2018年11月1日 至 2019年1月31日	自 2019年11月1日 至 2020年1月31日	自 2018年11月1日 至 2019年10月31日
売上高 (千円)	464,542	542,961	4,885,559
経常利益又は経常損失() (千円)	247,271	278,499	31,912
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純損失() (千円)	166,912	187,158	3,767
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	176,355	196,536	10,241
純資産額 (千円)	1,151,184	1,128,442	1,337,675
総資産額 (千円)	3,259,517	3,392,837	3,715,788
1株当たり四半期(当期)純損失金額 () (円)	131.46	147.41	2.97
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	29.8	27.5	30.5

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの名称を「野菜苗生産販売事業」から「野菜苗・苗関連事業」に名称を変更し、「その他」に区分しておりました報告セグメントに属さない「貸し農園事業」を「野菜苗・苗関連事業」に含めております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、2019年12月以降に中国で発生した新型コロナウイルス感染症が世界各地で発生しており、日本国内でも感染が拡大しております。今後の経過によっては、当社グループの事業活動及び収益確保に影響を及ぼす可能性があります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、企業の経営成績や雇用情勢が改善するなど、引き続き緩やかな回復基調で推移していましたが、2019年12月に中国武漢市を中心に広がっていった新型コロナウイルス感染症は急激な勢いで全世界へ広がっており、国内外において経済活動への影響が懸念され、先行き不透明な状況が一層強まっております。

当社グループの第1四半期連結累計期間(11月～1月)の業績につきましては、主力製品である野菜苗の需要が全国的に減少する時期であるため、売上高が他の四半期と比較して少額となる傾向にあります。一方、コスト面では、減価償却費や間接部門の人件費等が各四半期に概ね均等に発生することに加え、燃料費等の冬季経費が発生するなど季節的な業績変動要因があります。

このような状況の中、当第1四半期連結累計期間の売上高は542,961千円と前年同四半期と比べ78,418千円(16.9%)の増収となりました。損益面につきましては、営業損失273,702千円(前年同四半期は営業損失244,570千円)、経常損失278,499千円(前年同四半期は経常損失247,271千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は187,158千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失166,912千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

また、当社グループは、従来より「野菜苗生産販売事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとし、報告セグメントに属さない貸し農園事業を「その他」に区分しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、貸し農園事業を「野菜苗・苗関連事業」に含め、「野菜苗・苗関連事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとして変更しております。以下の前年同期比較については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

(野菜苗・苗関連事業)

当事業部門におきましては、11月～1月の閑散期の受注拡大に向けた営業による推進活動等様々な取り組みを行ったことにより、九州、東北、北海道地区向けの生産者や大規模菜園向けのトマト苗の受注拡大、2019年7月より事業を譲受けて開始した花苗育苗事業により売上が増加した結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は505,237千円と前年同四半期と比べ66,380千円(15.1%)の増収となりました。損益面につきましては、受注量増加に伴う製造原価の増加、営業強化に伴う人員増等により販売費及び一般管理費が増加した結果、セグメント損失(営業損失)は149,541千円(前年同四半期はセグメント損失134,875千円)となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
トマト苗	168,708	142.5
キュウリ苗	141,993	102.7
ナス苗	11,583	98.9
スイカ苗	13,784	119.2
メロン苗	100,456	100.9
ピーマン類苗 (注)	22,248	106.0
その他	46,462	120.9
合 計	505,237	115.1

(注) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
ポット苗(7.5cm～15cm)	249,422	113.5
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ、高接ぎハイレッグ苗、ウィルスガード苗)	132,344	119.6
セル苗(288穴～72穴)	93,718	120.3
その他	29,751	97.7
合 計	505,237	115.1

(注) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗(当社においては、主に断根接ぎ木苗にて育苗した苗)であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
北海道・東北	47,744	159.7
関東	322,752	102.5
甲信越	22,605	113.9
東日本地域 小計	393,103	107.8
中部・北陸	20,364	152.2
近畿・中国	29,960	163.8
四国	16,437	117.5
九州・沖縄	45,371	159.2
西日本地域 小計	112,134	151.2
合 計	505,237	115.1

(注) 静岡は「甲信越」に含めて表示しております。

(農業・園芸用タネ資材販売事業)

当事業部門におきましては、P B商品であるトマト種子の売上増加等により、種子売上高10,519千円(前年同四半期比0.9%増)となりました。また、2019年9月よりA Iを活用した病害予測サービスとセットになったハウス栽培向けの環境モニタリング装置の販売を開始したことにより売上が増加した結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は23,938千円(前年同四半期比1.3%増)となりました。また、セグメント利益(営業利益)は1,495千円(前年同四半期はセグメント損失319千円)となりました。

(海外事業)

当事業部門におきましては、現在、中国山東省にある子会社にて野菜苗及び花苗の生産、鉢花(シクラメン)の生産、トマト等の青果物の生産を中心とした施設園芸、生産技術開発のための試験等を行っておりますが、前事業年度より中国国内向けに肥料、袋型液肥給液システムを使用した栽培システムの販売を開始しており、肥料販売が増加したことにより売上拡大につながりました。引き続き、海外事業部を中心に海外での事業拡大に向けて技術開発並びに中国国内を中心に農業関連の市場開拓等を積極的に行っております。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高13,786千円(前年同四半期比567.8%増)、セグメント損失(営業損失)は10,571千円(前年同四半期はセグメント損失11,656千円)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結累計期間の資産の合計は、前連結会計年度末と比べ322,951千円(8.7%)減少の3,392,837千円となりました。これは、現金及び預金の減少46,976千円、受取手形及び売掛金の減少517,953千円、電子記録債権の減少72,959千円、棚卸資産の増加177,689千円等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結累計期間の負債の合計は、前連結会計年度末と比べ113,717千円(4.8%)減少の2,264,395千円となりました。これは、支払手形及び買掛金の減少24,750千円、電子記録債務の減少149,841千円、長期借入金の減少59,181千円等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結累計期間の純資産の合計は、前連結会計年度末と比べ209,233千円(15.6%)減少の1,128,442千円となりました。これは、剰余金の配当及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は16,891千円でありま

す。
なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,500,000
計	3,500,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年1月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年3月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,269,900	1,269,900	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	1,269,900	1,269,900		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年11月1日～ 2020年1月31日		1,269,900		331,494		241,494

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,267,700	12,677	
単元未満株式	普通株式 2,000		
発行済株式総数	1,269,900		
総株主の議決権		12,677	

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年10月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

2020年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ベルグアース株式会社	愛媛県宇和島市津島町北灘甲 88番地1	200		200	0.0
計		200		200	0.0

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2019年11月1日から2020年1月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年11月1日から2020年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、えひめ有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第19期連結会計年度	有限責任監査法人トーマツ
第20期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間	えひめ有限責任監査法人

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	489,299	442,323
受取手形及び売掛金	855,512	337,559
電子記録債権	173,628	100,669
商品及び製品	10,473	15,002
仕掛品	70,045	192,209
原材料及び貯蔵品	126,598	177,595
その他	58,503	81,270
貸倒引当金	2,086	2,160
流動資産合計	1,781,975	1,344,469
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,007,276	1,001,223
機械及び装置(純額)	190,739	183,058
土地	512,894	512,894
その他(純額)	30,427	79,483
有形固定資産合計	1,741,338	1,776,660
無形固定資産	40,185	39,763
投資その他の資産	152,289	231,943
固定資産合計	1,933,813	2,048,368
資産合計	3,715,788	3,392,837

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	301,588	276,837
電子記録債務	249,039	99,197
短期借入金	1 400,000	1 550,000
1年内返済予定の長期借入金	265,919	258,422
未払金	155,905	177,733
未払法人税等	19,758	3,718
賞与引当金	54,312	26,335
その他	80,328	80,371
流動負債合計	1,526,852	1,472,616
固定負債		
長期借入金	688,865	629,684
資産除去債務	76,671	76,909
その他	85,723	85,184
固定負債合計	851,260	791,778
負債合計	2,378,112	2,264,395
純資産の部		
株主資本		
資本金	331,494	331,494
資本剰余金	245,674	245,674
利益剰余金	558,430	358,575
自己株式	398	398
株主資本合計	1,135,200	935,346
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	279	299
為替換算調整勘定	63	520
その他の包括利益累計額合計	342	819
新株予約権	554	554
非支配株主持分	202,263	193,362
純資産合計	1,337,675	1,128,442
負債純資産合計	3,715,788	3,392,837

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年1月31日)
売上高	464,542	542,961
売上原価	466,735	525,149
売上総利益又は売上総損失()	2,192	17,812
販売費及び一般管理費	242,377	291,515
営業損失()	244,570	273,702
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	70	70
受取手数料	2,886	961
補助金収入	1,597	-
その他	958	895
営業外収益合計	5,512	1,928
営業外費用		
支払利息	1,137	1,221
持分法による投資損失	6,472	5,501
その他	603	1
営業外費用合計	8,214	6,724
経常損失()	247,271	278,499
特別利益		
固定資産売却益	-	6
特別利益合計	-	6
特別損失		
固定資産除却損	286	0
特別損失合計	286	0
税金等調整前四半期純損失()	247,558	278,493
法人税、住民税及び事業税	512	871
法人税等調整額	71,894	83,305
法人税等合計	71,382	82,433
四半期純損失()	176,176	196,059
非支配株主に帰属する四半期純損失()	9,264	8,901
親会社株主に帰属する四半期純損失()	166,912	187,158

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年1月31日)
四半期純損失()	176,176	196,059
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	492	20
為替換算調整勘定	313	457
その他の包括利益合計	178	477
四半期包括利益	176,355	196,536
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	167,091	187,635
非支配株主に係る四半期包括利益	9,264	8,901

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。当第1四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入金の未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
当座貸越極度額の総額	700,000千円	700,000千円
借入実行残高	400,000千円	550,000千円
差引額	300,000千円	150,000千円

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
ファンガーデン株式会社(注)	18,870千円	15,591千円
株式会社むさしのタネ	18,694千円	30,530千円
計	37,566千円	46,121千円

(注) 債務保証額から持分法適用に伴う負債として計上された金額を控除した金額を記載しております。

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自2018年11月1日至2019年1月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自2019年11月1日至2020年1月31日)

当社グループの第1四半期連結累計期間の売上高は、主力製品である野菜苗の需要が全国的に減少するため、他の四半期連結会計期間の売上高と比べて著しく減少する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年1月31日)
減価償却費	42,075千円	42,173千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2018年11月1日至2019年1月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年1月30日 定時株主総会	普通株式	12,697	10.00	2018年10月31日	2019年1月31日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自2019年11月1日至2020年1月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年1月30日 定時株主総会	普通株式	12,696	10.00	2019年10月31日	2020年1月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自2018年11月1日 至 2019年1月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	野菜苗・苗関 連事業	農業・園芸用 タネ資材販売 事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	438,856	23,621	2,064	464,542	-	464,542
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	3,795	3,795	3,795	-
計	438,856	23,621	5,860	468,338	3,795	464,542
セグメント損失()	134,875	319	11,656	146,851	97,718	244,570

(注)1. セグメント損失()の調整額 97,718千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自2019年11月1日 至 2020年1月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	野菜苗・苗関 連事業	農業・園芸用 タネ資材販売 事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	505,237	23,938	13,786	542,961	-	542,961
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	1,847	1,847	1,847	-
計	505,237	23,938	15,634	544,809	1,847	542,961
セグメント利益又は損失 ()	149,541	1,495	10,571	158,617	115,085	273,702

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 115,085千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「野菜苗生産販売事業」は、「野菜苗・苗関連事業」に名称変更しております。

また、当社グループは、従来より「野菜苗生産販売事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとし、報告セグメントに属さない貸し農園事業を「その他」に区分しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、貸し農園事業を「野菜苗・苗関連事業」に含め、「野菜苗・苗関連事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとして変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの名称及びセグメント区分に基づきで記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)
1株当たり四半期純損失金額()	131円46銭	147円41銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	166,912	187,158
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	166,912	187,158
普通株式の期中平均株式数(株)	1,269,700	1,269,653

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年3月13日

ベルグアース株式会社
取締役会 御中

えひめ有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 丸木 公介 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉松 勲 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているベルグアース株式会社の2019年11月1日から2020年10月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2019年11月1日から2020年1月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年11月1日から2020年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ベルグアース株式会社及び連結子会社の2020年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の2019年10月31日をもって終了した前連結会計年度の第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して2019年3月14日付で無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2020年1月30日付で無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。